

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ① 第三者評価機関名

一般社団法人 日本保育者未来通信
------------------

## ②施設・事業所情報

名称：すまいる保育園	種別：地域型保育事業（小規模保育事業A型）
代表者氏名：貴島 修子	定員（利用人数）： 11名
所在地：〒226-0019 横浜市緑区中山一丁目29番6-109号	
TEL：045-511-7262	ホームページ： <a href="http://nursery.smilecrew.co.jp/hoiku/smile-hoikuen/">http://nursery.smilecrew.co.jp/hoiku/smile-hoikuen/</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2012年04月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社スマイルクルー	
職員数	常勤職員： 6名 非常勤職員 5名
専門職員	園長： 1名 保育士： 8名
	栄養士： 1名 管理者： 1名
施設・設備 の概要	保育室（0歳）： 1室 保育室（1歳）： 1室
	保育室（2歳）： 1室 調理室： 1室
	医務室： 1室 幼児用トイレ： 1個

## ③理念・基本方針

<p>【保育理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「enjoy!子育て」 子育ては、みんなでやればもっともっと楽しくなります。ともに分かち合うことで、子どもの可能性がぐんと広がります。</li> <li>・「think!生きる力」 子どもが発する「なぜ?」「どうして?」を大切にし、失敗を恐れずに行動する気持ちを育てます。子どものありのままを受け止め、見守ることで、自ら考え生み出していく力を培います。</li> <li>・「natural!健康な身体」 自分が自分らしくいられるように、【みる・きく・ふれる・あじわう・かんじる】五感、直感、感性を大切にします。</li> </ul> <p>【保育方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働く保護者の視点に立ち、子育てを共に考えます</li> <li>・子どもが自主的に考え、行動できる姿を目指します</li> <li>・心身ともに健康で、自然体でいられる環境を整えます</li> </ul> <p>【保育目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康で明るい子ども</li> <li>・友達と仲良く遊べる子ども</li> <li>・心豊かな子ども</li> <li>・意欲と思いやりのある子ども</li> <li>・強く生き抜く事ができる子ども</li> </ul>
---

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

【日誌等を通して、日々の安全管理に努めています】

日誌には、ヒヤリハットの項目が設けられ、日々の保育の振り返りとともに、安全面について振り返る仕組みが整備されています。また、リスクマネジャーを設置し、日ごろの保育の中で安全面に関して気づいたことを、保育会議や職員会議等を通して周知するなどの取り組みを行っています。さらに、安全・事故防止についての研修の場を設けることや、事故が起きた際に記載する事故報告書の分析などに取り組んでいます。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和3年 6月 21日（契約日） ～ 令和4年 1月 20日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0 回（今回が初回）

#### ⑥総評

◇特に評価の高い点

【自己評価に積極的に取り組み、日々の保育に反映させています】

園では年に2回、各職員が所定の様式にもとづき自己評価に取り組むとともに、全職員で定められた項目ごとに、保育所全体の自己評価に取り組むなど、自己評価を積極的に実施し、日々の保育に反映させています。また、365問から構成される、保育者のための自己評価チェックリストにも取り組んでいます。保育所全体の自己評価については、各職員が実施した自己評価結果を集約し、自己評価を踏まえた気づきや課題項目等を具体的に取りあげています。取りあげられた気づき及び課題については、「常に子どもを中心にし、子どもの目線で、子どもが主役の保育を心がけること」など、次年度に向けての職員の共通認識を示すことで、具体的な保育に反映させています。

【日々の保育実践と併用して、保育マニュアルを積極的に活用しています】

法人が作成した保育マニュアルは、自由遊び、散歩の支度、排泄の時間等、1日の園での具体的な活動に沿って記載され、活動ごとに保育士の配慮や対処法など詳細な内容が記載されています。園では、入社の際や年度初めの職員会議等で共有するほかに、園内研修にてマニュアルの見直しを行うなど、日々の保育実践と併用してマニュアルを積極的に活用し、職員間の共通理解につなげています。また保育マニュアルを、職員自身が将来どのような保育を実践していきたいかを振り返るツールとして使用するなど、積極的に活用しています。

【身近な人や環境との関わりの中で、子どもたちはさまざまな経験を重ねています】

園の近隣には河川があり、四季折々の植物や生き物に触れることができます。また、地域には畑なども残っており、季節に応じた野菜などの生長も散歩を通して感じられる環境です。子どもたちは、日々の散歩の中で落ち葉等の植物の変化を通して季節を感じたり、カエルやコオロギ、バッタなどの虫探しなどを行っています。また、散歩の際に畑で育てているキャベツやカブなどの生長の過程を感じています。さらに、直売店でみかん等を購入したり、購入を機会に農家の方から芋ほりに誘われ、実施するに至ることもありました。芋ほりで収穫した芋は、給食で提供するとともに、各家庭へのお土産にもなりました。このように、身近な人や環境との関わりの中で、子どもたちがさまざまな経験ができるよう配慮しています。

◇改善を求められる点

【中・長期計画に具体的な成果等を設定し、定期的な実施状況の振り返りが期待されます】

園では、中期計画として「地域の社会福祉のニーズに対応した保育運営」「適正な経営」「保育の質の向上」「組織の活性化」の4項目を挙げ、具体的実施内容を記載しています。また、計画の中に、人材採用計画を位置づけ、採用から育成までを検討するとともに、必要に応じて本部で見直しを実施され施設長と共有しています。今後は、項目に応じた年度ごとの成果等を設定し、定期的な実施状況の評価を行うことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

- ・子どもひとりひとりと向き合った家庭的な保育を心掛けて行っています。その部分を評価頂き今後も子どもたちを第一に考えて関わっていきたいと思います。
- ・コロナ禍ではありますが、外部の研修を通して、保育の質の向上に務めていきたいと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり